

自己点検・自己評価 報告書

令和6年度

評価対象期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

学校法人 赤門学院
専門学校 赤門自動車整備大学校

令和6年度 自己評価表

(1) 教育理念・目標

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
学校理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	
学校における職業教育の特色は何か	3	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	

[1. 課題]

教育理念と目標は明確に定められ取り組んでおり、ホームページ等で適切に明示されている。また、研修会などを通じて定期的に意思統一が図られているが、職員一人一人の意識については差が感じられる面があるため、意識向上を強化する必要性がある。

近年増加している外国人留学生については、将来日本で就職して働くことを想定し、日本語力や日本の文化・生活習慣も含めた指導が行われているが、日本語力の個人差が大きく理解を得られにくい面も見受けられるため、対策の強化が必要である。

[2. 今後の改善方策]

掲げている教育理念・目標に向かって今後も学校と学生が一丸となり、統一して行っていくことが重要である。人材育成については、豊かな人間性と協調性に富んだ人材を育成するためにカリキュラムの見直しや、工夫された教育プログラムを作成していく必要がある。

自動車整備士としての知識・技術面においては、新しい技術などにも対応できる人材を育成するために、使用する教材の見直し・充実化や、授業内容についても常に改善を意識して取り組んでいくとともに、令和9年度から始まる自動車整備士資格の改正に対応した授業展開の準備が重要と考える。

外国人留学生については、留学生特有の事情を考慮した教育方針を別途取組み、日本で活躍できる人材育成を行っていく。

[3. 特記事項]

近年自動車整備士資格の見直しが行われたことで、令和9年度より自動車整備士の区分が新制度に移行することが決定している。

令和6年度 自己評価表

(2) 学校運営

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	3	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4⇒3	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	

[1. 課題]

年間計画、組織図、役割分担等により目的に沿った運営がされているが、授業以外の担当業務も負担が増え、担当者へ業務が集中することもある。また、Windows10のサポート終了に伴い、対応パソコンへの切り替えも進んできているが、未対応パソコンも残っている。

[2. 今後の改善方策]

システム化による業務の効率化を進めると共に、科・学年を問わず協力して業務を進め、各担当業務の平均化を行い負担を軽減させる。また、職員間での情報の共有化を図り業務効率化に結びつける。Windows11未対応のパソコンについては、学校データのセキュリティを考慮し次年度も継続してWindows11対応パソコンへ切り替えて行く。

[3. 特記事項]

イベントや外部講師によるセミナー等はホームページで都度公開している。

令和6年度 自己評価表

(3) 教育活動

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	
授業評価の実施・評価体制はあるか	3	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	

[1. 課題]

- ・教員不足による各業務の負担増加。資質能力の高い人財確保と業務内容の見直しや明確な分離化（教務・就職・学務等）
- ・企業との連携（セミナーやインターンシップ等）現在状況より更に良い方向に進む様に常に業界内の情報収集が必要であると考える。

[2. 今後の改善方策]

- ・教員の求人を継続し早急的な教員確保が必要であるが、その求人方法を検討する必要がある。
- ・教員の業務を、研修やセミナーに捉われず現在以上に業務効率を各自に行うマネジメントを強化する。企業連携に関しても各ニーズをしっかりと把握し進める事を重視する。

[3. 特記事項]

令和6年度 自己評価表

(4) 学習成果

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
就職率の向上が図られているか	3⇒4	
資格取得率の向上が図られているか	3	
退学率の低減が図られているか	3	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2⇒3	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2⇒3	

[1. 課題]

就職率は高く、入学後すぐから就職課、担任により就職相談、指導を行い、進路指導時間による一般常識問題の実施や模擬面接を行うことにより試験対策の強化を行っている。資格取得に関しては、各種資格講習等の案内を行い、積極的に参加させているが、留学生においては、金銭面等での理由により資格取得は見込みが難しい。自動車整備士国家試験については、合格率も高く、100%を目指した指導方法を実施しているが、留学生については日本語能力の底上げが課題である。退学率に関しては、担任から校長、保護者と連携を図り、また、学生相談窓口を設置し、退学率の低減に繋げているが、相談窓口の利用、相談しやすい環境作りが課題である。

[2. 今後の改善方策]

就職については、試験対策の強化、社会性と順応性を高めるための生活指導を継続して行っていく。留学生においては、就職先の確保及び維持、日本語能力の向上、日本の企業への適応を高める事を意識した指導を行っていく。資格取得率は、国家資格取得率100%を達成維持していく上で、留学生の日本語能力の底上げが必要課題であり、その為の授業の構築、教員の指導力強化、学生個々とのコミュニケーション、サポートを通じて魅力ある学校づくりを行い、学生満足度を高め、退学率の低減にも繋げていく。卒業生の動向調査を強化し、活動状況を学生へ紹介、共有する事で将来のビジョンを明確にし、学習意欲を高め自発的に学習する教育に繋げていく。

[3. 特記事項]

--

令和6年度 自己評価表

(5) 学生支援

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3	
学生相談に関する体制は整備されているか	3	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4⇒3	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
学生の生活環境への支援は行われているか	3	
保護者と適切に連携しているか	3	
卒業生への支援体制はあるか	3	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	

[1. 課題]

進路・就職や学生相談に関する支援体制では担任の負担が大きい。また、学生の生活環境における支援が不足している。

[2. 今後の改善方策]

相談内容による担当や業務での役割分担と、時間の確保が必要。また、学生が快適に学生生活を過ごすため学生寮等の環境整備が必要である。

[3. 特記事項]

--

令和6年度 自己評価表

(6) 教育環境

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2⇒3	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	
防災に対する体制は整備されているか	3	

[1. 課題]

施設、設備、実習車、単体教材や計測機器等の老朽化が進んでいるのが現状であり、今後は新課程に合わせたE V等の教材の導入を進める必要がある。また、安全を考慮した施設・設備の修繕や計測機器等の入替が必要である。

[2. 今後の改善方策]

自働車メーカーや販売店様の寄贈により、実習車両、単体エンジンやミッション等の教材も充実してきました。計測機器等の共用工具については、棚卸等で確認した結果を踏まえ修繕や入替えを行っていく。今後は新課程の授業に沿った授業を電動モビリティシステム専門職大学との連携を行い、大学の教材を使用した授業も検討していく。

[3. 特記事項]

防災対策については、各校舎の戸締り及び火元責任者による巡回や、新入生の入学後に防災訓練を実施し、避難経路や避難場所を確認している。また、新入生については避難訓練時に消火器の使い方を説明している。就職学年のインターンシップについても年々参加者も増え、販売会社に受け入れていただき、外部講師による学内セミナーも毎年実施している。

令和6年度 自己評価表

(7) 学生の受入れ募集

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
学生募集活動は、適正に行われているか	3	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	
学納金は妥当なものとなっているか	3	

[1. 課題]

①3級科の定員確保 ②2級科日本人学生入学生確保 ③外国人留学生の安定した確保の3点が課題となっている。業界の市場規模が縮小傾向にあるに伴い整備士を目指す若者も少なくなっている現状の中、如何にして募集確保するかが課題である。

[2. 今後の改善方策]

自動車業界に対して魅力を感じて貰えるような情報の提供を行うとともに、内部から学校の良い情報が発信される事と同時に、独自の宣伝活動をより強力に展開する。これまでの常識にとらわれず、短期的戦略と長期的戦略の二本立てで取り組むことが必要。

[3. 特記事項]

--

令和6年度 自己評価表

(8) 財務

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	
財務について会計監査が適正に行われているか	3	
財務情報公開の体制整備はできているか	3	

[1. 課題]

当法人の中長期的な財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開についての総合的な自己評価は、前年度の評価と同様、全てほぼ適切（3）であるという結果になったが、財務基盤は将来的に担保されているものではなく、学校の教育水準の維持向上を図るべく今後もさらなる改善が必要と思われる。

[2. 今後の改善方策]

整備大学校の日本人学生の確保を目的とした適正かつ有効な予算の分配と履行。令和7年4月からの私立学校法改正に伴い、法人組織に会計監査人が必要となることから、公認会計士との契約を締結することで業務指導を受けられる体制を構築する。

[3. 特記事項]

--

令和6年度 自己評価表

(9) 法令等の遵守

項目名	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4⇒3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4⇒3
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	3

[1. 課題]

自己評価の問題点を速やかに改善することが求められる。

[2. 今後の改善方策]

個人情報の保護について、セキュリティシステムの構築及び教職員の高い意識の統一が必須。

[3. 特記事項]

自己評価の実施後は結果を有効に活用することが重要。

令和6年度 自己評価表

(10) 社会貢献・地域貢献

項目名	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

[1. 課題]

社会貢献・地域貢献を通じ、社会への寄与のみならず、当校の知名度向上を図る。

[2. 今後の改善方策]

学院祭やカーフェスティバル及びテストコースの貸し出しについて、経費を含め広報宣伝活動に更に力を入れ、学校の知名度向上と集客に努める。中学生の職場体験については、将来の整備士候補とのふれあいであり、中学生と中学校の満足度を高めることが大切。

[3. 特記事項]

学生ボランティアの奨励・推進は、学生のコミュニケーション能力向上や関連団体との関係構築が期待できる。